

美唄市議会産業・厚生常任委員会道外都市行政調査報告書

調査地 愛知県高浜市
愛知県蟹江町

令和7年11月11日から11月13日までの3日間にわたり道外都市行政調査を行ったので、その概要を別紙のとおり報告します。

令和8年3月11日

美唄市議会議長 谷村知重様

美唄市議会産業・厚生委員会

委員長 齋藤久美夫

副委員長 海鉾則秀

委員 永森峰生

〃 江川いつみ

〃 本郷幸治

〃 楠徹也

〃 松山教宗

事務局 永岡佑

産業・厚生常任委員会行政視察報告

1 実施の概要

日 時：令和7年11月12日 14:30～16:00

場 所：愛知県高浜市 いきいき広場1F

調査項目：介護予防事業「健康自生地」について

2 調査の目的

本市における少子高齢化が進展する中、高齢化率は44.7%に達しており、今後ますます進行する高齢化社会に対応するため、行政の施策として高齢者福祉や介護の充実が求められています。その中で、現在進めている介護予防事業の重要性が一層高まっています。

そこで、高齢者が自宅に閉じこもることなく、生き生きと生活できるよう、また自ら積極的に外出したくなるような「健康自生地」の創出を目指し、先進的な取組を行っている高浜市を産業・厚生委員会で視察しました。視察を通じて、その理念、意図、運営方法について理解を深め、今後の福祉・介護及び介護予防事業の発展、さらに共生社会の向上に向けた適切な行政への提言や議論を行うことを目的として、本研修を実施したものです。

3 調査のまとめ

高浜市では、平成23年度から福祉施策事業「生涯現役まちづくり事業」をスタートさせ、家に閉じこもりがちな高齢者が自ら外出したくなるような場所、いわゆる「健康自生地」の創出に取り組んできました。定年後やデイサービス卒業後に出かける場所がなく、自宅に閉じこもりがちになると、要介護状態に陥るという視点から、「健康自生地」という取組を開始し、閉じこもり防止や介護予防に一定の成果を上げていること（国立長寿医療センターの研究調査）を確認しました。

「健康自生地」には、社交ダンス、体操教室、スポーツ吹矢、合唱、カラオケ、パソコン教室、おしゃべり健康相談、喫茶店や洋菓子店など、非常に多様なメニューが揃っており、地域の人々が自主的・主体的に運営に関わっています。これにより、高齢者の居場所づくりに協力しています。

一方で、「健康自生地」は百数十カ所に及びますが、開設の目的や趣旨を住民に理解してもらうためには、行政職員の努力とその後のフォローアップによる信頼関係の構築が必要です。市民や商工関係者、福祉施設関係者などが一体となって、高齢者の健康づくりに取り組んでいます。

今回の視察を踏まえ、本市の高齢化率を考慮すると、この事業の有用性は非常に高いと感じました。しかし、これらの事業を推進するにあたり、行政主導では強制的になり過ぎる可能性があり、また民間主導では将来的に負担が増大する恐れもあります。そのため、高浜市のように民間の各種団体と行政がしっかりと連携し、信頼関係を築きながら進めていくことが重要であると認識しました。

今後は、各種教室や組織づくりを進めるとともに、行政と民間の信頼関係を築きながら業務を推進していくことが不可欠であり、この点についても議論を深めていかなければならないと考えています。

産業・厚生委員会 委員長 齋藤久美夫

産業・厚生常任委員会行政視察報告

1 実施の概要

日 時：令和7年11月13日 09:30～11:30

場 所：愛知県蟹江町 蟹江町役場、観光交流センター「祭人」

調査項目：蟹江町観光交流センター「祭人」に関する取組について

2 調査の目的

本市では、近年のインバウンドの増加などを背景に、街の賑わいづくりに力を入れています。また、市内には温泉（ピパの湯ゆ～りん館）や体験交流館などの交流拠点施設があり、市民のみならず国内外の観光客の誘致をさらに進めています。こうした状況の中で、愛知県蟹江町では、町のお祭り「須成祭」が平成28年にユネスコ無形文化遺産に登録され、観光振興を目指して町民から土地の寄贈を受けたことを契機に、「地方創生拠点整備交付金」などを活用して観光交流センター「祭人」を建設しました。なお、施設名は町民からの公募により決定されました。

この「祭人」は、町の観光・産業振興や地域交流の拠点として、地域性を生かした運営が行われています。また、毎年8月に開催される「須成祭」には多くの外国人観光客が訪れ、施設内では国際交流団体と連携し、外国人向けの対応や対策も実施されています。

これらの取組を踏まえ、本市における今後の街の賑わいづくりの参考とするため、蟹江町を視察しました。本研修は、行政に対する適切な提言や議論を行うことを目的として実施したものです。

3 調査のまとめ

蟹江町では、400年の歴史を誇る「須成祭」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことを契機に、観光振興を目的とした施設の整備が進められています。これにより、町は土地の寄贈を受けて「須成祭」をテーマにした観光交流センター「祭人」を建設しました。国の補助金等を活用し、この施設を中心に街の賑わいを創出し、観光振興を図っています。

「祭人」の運営は指定管理者が担当していますが、センター長が町内在住者であることから、地域の事業者や商店との強いネットワークが形成されています。また、施設内には地域限定の旅行業資格を持つスタッフが常駐しており、「祭人」周辺の歴史的な寺院や仏像への周遊を促進しています。さらに、毎月第3土曜日に開催されるマルシェなどのイベントも来館者数の増加に寄与しています。

しかし、イベントがない日については利用者数がまだ少ないという課題が残っています。また、外国人観光客にも対応できるよう、町全体を案内する多言語パンフレットが用意されていますが、施設の案内に関しては、インスタグラムや公式LINE、ホームページ、紙媒体など、さまざまな方法で情報発信を行っています。

これらの研修を通じて、人々の交流や街の賑わい作りにおいては、地域の伝統や文化を活かし、各種イベントとの連携や情報発信による来訪のきっかけ作りが重要であることを再認識しました。本市においても、交流拠点である「ゆ〜りん館」を中心に、各種施設や観光資源の連携（周遊）をどう進めるか、またその情報発信の方法と相乗効果を再検討する必要があると考えます。

今後、この調査結果と視察内容を基に議論を深め、行政に対して適切な提言ができるよう、委員会内でさらに議論を重ねていきたいと考えています。



●高浜市議会神谷議長より挨拶



●委員長挨拶



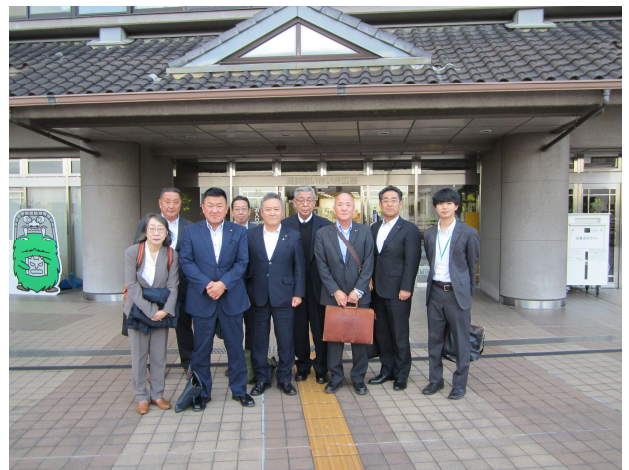
●高浜市役所福祉部共生推進グループ職員より説明



●質疑の様子



●質疑の様子



●視察後、いきいき広場にて



●蟹江町横江町長より挨拶



●蟹江町議会佐藤副議長より挨拶



●委員長挨拶



●視察の様子



●視察の様子



●視察後、「祭人」にて